



*39th NIPS International Symposium
& 7th OIB Symposium*



*“Frontiers of Biological Imaging – Synergy of the Advanced
Techniques”*

Okazaki, November 10-13, 2008

第 39 回生理学研究所国際シンポジウム
& 第 7 回岡崎統合バイオサイエンスシンポジウム
「生物イメージングの最前線—最先端技術の連携」

主催： 自然科学研究機構生理学研究所

共催： 総合研究大学院大学

自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター

自然科学研究機構分野間連携研究イメージングサイエンス

会期： 2008 年 11 月 10 日～11 月 13 日（4 日間）

会場： 自然科学研究機構 岡崎カンファレンスセンター

愛知県岡崎市明大寺町字伝馬 8-1

開催目的： 1977 年の設立以来生理学研究所では研究所の 1 ないし 2 の研究部門が中心となり部門が担当する専門分野の最端研究成果を核に関連する世界の研究グループを一堂に会し国際シンポジウムを開催して参りました。39 回目にあたる 2008 年は分子生理学研究所系ナノ形態生理研究部門が本国際シンポジウムを担当することとなりました。ナノ形態生理部門はすでに 2003 年第 30 回生理学研究所国際シンポジウム “Frontiers of Biological Electron Microscopy” を主宰しており、今回は顕微鏡分の最近の発展を受け、電子顕微鏡と他のイメージング法との連携の道を探ります。生理研国際シンポジウムと部分的に重なる形で岡崎統合バイオサイエンスシンポジウムも開催し、共同研究活性化の契機にしたいと考えています。

開催意義： イメージング法は技術革新の著しい分野の一つであり、特に生体系に関し、分子、細胞、組織、そして個体の各階層に応用されています。イメージング手法として顕微鏡の活躍がめざましく、電子顕微鏡、光学顕微鏡、各種走査プローブ顕微鏡などが研究の先端を切り拓いています。従来こうした顕微鏡は独立の領域を形成し、相互連携は弱かったのですが、近年こうした手法間の横断的利用が試みられるようになりました。今回のジョイントシンポジウムでは、電子顕微鏡、光学顕微鏡、プローブ顕微鏡の協調の道を探りイメージング手法の将来を基礎づけます。